

# 環境教育における冒険学習の方法

— 子どものための冒険学校 —

蜂須賀 美保

## Methodology of adventure learning in Environmental Education

— An Adventure School for Children —

Miho HACHISUKA, FSIFEE, Tokyo Gakugei University

環境教育の重要な手法として自然体験学習がある。現在では様々な人によって活動が展開されているが、その中には環境教育としての意義が曖昧なまま活動を行っているものも多い。このような活動ばかりが増えてしまうと、自然に対する関心はあっても正しい認識をしていない人が増えていき、人々の生活は自然から切り離されたものになってしまう。

そこで、イギリスのアウトワード・バウンドが始めた「冒険学習」に着目した。冒険学習は豊かな人間性を育て、社会の中で自己実現できる人を育てることを目的としている。つまり、環境教育として冒険学習を取り入れることができれば、環境のために行動できる人材の育成につながるのではないだろうか。よって、本研究では環境教育における冒険学校の一方法論を考察し、提示することを目的とする。

研究対象は、1988年から東京学芸大学が行ってきた「子どものための冒険学校」という公開講座である。この活動に関する資料調査と活動を運営してきた自然文化誌研究会のメンバーにインタビュー調査を行い、冒険学習の一方法論として考察した。それと合わせて、環境学習として必要な要素を探るために日本ネイチャー・ゲーム協会元理事長も研究対象とし、インタビュー調査を行い考察した。

結果、冒険学校には「地域の文化・自然」「自

由な選択」「主体的に活動できる環境」「学習を支えるスタッフ」という4つの要素が存在した。特に、冒険学校として安全を確保するためにスタッフはとても重要であることが分かった。子どものための冒険学校は、これらを軸に環境教育として冒険学習を行ってきたのである。また元理事長のインタビュー調査から、行動につながる要素として、「自然との一体感」「出会い」「信念」が浮かび上がった。つまり、自然との一体感を得る体験をし、人や自然と出会うことで成長する。そして、自然や生物を守りたい、何かしたいという強い思いを抱くことが人々を行動へと駆り立てるのである。

これらの結果から、冒険学習は「①冒険活動：挑戦する、成功・失敗の体験 ②自由：自分で考え判断し、行動し、工夫して物事を創造する ③地域：伝統文化、地域の自然、人々の暮らし ④スタッフ：力量がある、助言する」という4つにより構成され、子どもたちの学びを支えているのである。そして、この冒険学習は「生きる力を養い、未来を作りあげる力につながる」学習となり、子どもたちの未来に希望を与えるのである。

最後に、冒険学習とは「冒険」の持つ魅力で人々を惹きつけ、未知の自然と出会い、環境学習へ誘うことのできる学習である。

図1. 冒険学習の構造

